

事業コード	0070101	政策コード	03	政策名	新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略
事業名	農山漁村体験施設感染症対策支援事業	施策コード	07	施策名	地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり
		指標コード	01	施策目標(指標)名	多様な資源を生かした地域ビジネスの展開
部局名	農林水産部	課室名	農山村振興課	班名	調整・地域活性化班
				(tel)	1851
				担当課長名	阿部 浩樹
				担当者名	柴橋 和彰
<b>評 価 対 象 事 業 の 内 容</b>					
事業年度 令和02年度 ~ 令和03年度					

1-1. 事業実施の背景(施策目標の達成のためになぜこの事業が必要であったのか)  
 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、農家民宿、農家レストラン等の農山漁村体験施設の利用者が減少し、大きな影響を受けている。感染症収束の見通しが立たない中、受入側・利用側の双方が安心して利用できる対策が求められているほか、収束後の需要回復に向けた情報発信力の強化等に対して支援する必要がある。

1-2. 外部環境の変化及び事業推進上又は完了後に明らかになった問題点  
 事業実施後のアンケート結果から、本事業の助成対象、助成額等の事業内容について高評価が得られ、事業の継続を求める声が多かったことから、県民のニーズに合致していたものと判断できる。一方で、高齢な農家が多く申請書類の作成に不慣れなため、手続きの簡素化や事業期間の延長等を求める声があった。

2. 住民満足度の状況(事業終了後に把握したもの)  
 満足度を把握した対象 受益者 一般県民 ( 時期 : R03年 05月 )  
 満足度の把握方法  
 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット  
 その他の手法 ( 具体的に )  
 満足度の状況  
 助成の対象、上限額、総合的満足度は、約7割の利用者が「満足」または「やや満足」であった。また、実施期間、事務手続きについては約7割の利用者が「満足」または「やや満足」であった。

3. 事業目的( どういう状態にしたかったのか )  
 県内の農家民宿、農家レストラン等の農山漁村体験施設を利用してもらい、事業者の収入を確保するとともに、受入側・利用側の双方が安心して利用できるような態勢を構築する。

4. 目的達成のための方法  
 事業の実施主体  
 県内の農家民宿、農家レストラン等の個人事業者、地域協議会等の団体  
 事業の対象者・団体  
 県内の農家民宿、農家レストラン等の個人事業者、地域協議会等の団体  
 達成のための手段  
 新型コロナウイルス感染症の対策に関する設備等の導入や、需要回復のための情報発信力の強化等に関する取組等に対して助成する。

5. 前回評価における指摘事項等  
 指摘事項 9月補正のため前回評価なし  
 指摘事項への対応 9月補正のため前回評価なし

6. 事業の内容  
 事業概要及び推進状況  
 新型コロナウイルス感染防止のための取組を支援するとともに、情報発信力の強化を図る。 ・衛生設備の導入や施設改修等に要する経費 ・情報発信や誘客促進、安全対策等に要する経費

事業費等		単位(千円)	
内 訳		当初計画事業費	最終事業費
感染症対策支援事業		23,000	22,117
		0	0
		0	0
		0	0
		0	0
事業費計		23,000	22,117
財源内訳	国庫補助金	23,000	22,117
	県 債	0	0
	そ の 他	0	0
	一 般 財 源	0	0

当初計画及び最終の事業費比較  
 最終事業費 / 当初計画事業費 =( 0.96 )

7. 事業の効果及び課題の改善状況  
 本事業を活用し、県内の23事業者、4団体で感染症対策を実施し、6事業者4団体で情報発信をおこなった。

8. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

指標名									指標の種類
指標式									成果指標 業績指標
年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 該当 非該当									
指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	01年度	02年度	全体	
目標a	0	0	0	0	0	0	0		
実績b	0	0	0	0	0	0	0		
b/a									0%
データ等の出典									
把握する時期 当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 月									

指標名									指標の種類
指標式									成果指標 業績指標
年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 該当 非該当									
指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	01年度	02年度	全体	
目標a	0	0	0	0	0	0	0		
実績b	0	0	0	0	0	0	0		
a/b									0%
データ等の出典									
把握する時期 当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 月									

指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法

指標を設定することが出来なかった理由  
 本事業は、感染症対策として単年度に緊急におこなったものであり、効果の把握が困難である。

成果(見込まれる効果)  
 農家民宿及び農家レストランの利用者数の回復

所管課の評価				評価結果
有効性の観点	住民満足度の状況 a b c	【b又はcの場合の分析】		A B C
	事業の効果 a 達成率100%以上 b 達成率80%以上100%未満 c 達成率80%未満	適用の可否 可 不可	【b又はcの場合の理由】	
	事業の経済性の妥当性 a 1.0~ b 0.8~1.0 c ~0.8	適用の可否 可 不可	【評価への適用不可、又はb、cの場合の理由】	
効率的性の観点	$\left[ \frac{\text{事業終了後の効果}}{\text{最終事業費}} \right] / \left[ \frac{\text{当初計画時の効果}}{\text{当初計画事業費}} \right] =$			A 1.0~ B 0.8~1.0 C ~0.8
	事業主体に対して、複数業者による見積もり合わせ方法等、事業費の節減に努めるよう指導助言を行った。			
総合評価	A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い)			評価結果の類似事業への反映状況等(対応方針)
	コロナ禍の拡大により、農家民宿は教育旅行を中心に一定の需要があるが、外出・県間移動の自粛により受入数が激減している。また、農家レストランでも大型連休も自主休業するなど影響を大きく受けている状況下で、コロナ禍の中でも受入側・利用側双方が安心して利用できるようになった。			
政策評価委員会意見				

## 終了事業事後評価判定点検表

(様式5-1)

### (1) 各評価項目の判定基準

観点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果		
ア有効性	一 住民満足度等の状況	a 住民満足度等を的確に把握しており、満足度も高い	2	2		A:有効性は高い (4点)		
		b 住民満足度等を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が高くない	1					
		c 住民満足度等を把握していない	0					
	二 事業目的の達成状況	a 目標値に対する達成率が全て100%以上	2	1		B:有効性はある (1~3点)		
		b a、c 以外の場合	1					
		c 目標値に対する達成率のいずれかが80%未満	0					
計			4	3		B		
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	a 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値(注)が全て1.0以上	2	1		A:効率性は高い (2点)		
		b a、c 以外の場合	1					
		c 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値のいずれかが0.8未満	0					
	計			2	1		B	
						C:有効性は低い (0点)	1次	2次

(注) 事業経済性の算定式

(事業終了後の効果 / 最終事業費) / (当初計画時の効果 / 当初計画時事業費)

上式で、効果とは事業の効果を把握するために設定した指標の実績値をいう。なお累積の実績値を設定している場合は、前年度からの差し引きによる「単年度増加分」を実績値として用います。

### (2) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	B	
B (概ね妥当である)	総合評価結果が「A」又は「C」以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		